

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2021年3月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2021年3月12日～3月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 125社
- 回収率 62.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の3月の状況を見ると業況DIは、前月より18.8ポイント改善の▲28.8となった。

2017年9月以来43ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲29.6、当月と比べ0.8ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2020年 10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月	先行き見通し 2021年4月～ 2021年6月
業況	▲44.8	▲42.3	▲41.0	▲46.0	▲47.6	▲28.8	▲29.6
売上	▲43.2	▲38.5	▲45.1	▲44.5	▲48.4	▲26.4	▲30.4
採算	▲40.8	▲35.3	▲37.7	▲43.7	▲43.5	▲31.2	▲32.0
仕入単価	▲12.0	▲17.2	▲14.8	▲16.6	▲25.0	▲34.4	▲36.8
販売単価	▲12.8	▲16.4	▲10.7	▲16.7	▲17.0	▲6.4	▲4.0
従業員	21.6	19.7	13.9	8.7	14.5	12.0	18.4
資金繰り	▲18.4	▲23.0	▲19.7	▲19.0	▲23.4	▲20.0	▲20.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2020年 10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月	先行き見通し 2021年4月～ 2021年6月
建設	▲21.4	▲18.5	▲22.2	▲22.2	▲16.7	▲23.4	▲40.7
製造	▲64.5	▲44.9	▲38.7	▲45.2	▲50.0	▲32.1	▲10.7
卸売	▲32.0	▲25.0	▲25.9	▲35.7	▲39.3	▲17.9	▲25.0
小売	▲35.0	▲57.9	▲61.1	▲58.8	▲52.9	▲50.0	▲50.0
サービス	▲71.4	▲70.8	▲73.7	▲78.3	▲80.0	▲30.5	▲30.4

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・今後建築資材の高騰が予想され、材料費の高騰分を販売価格に転嫁することは受注競争上難しく、収益の圧迫要因となる懸念あり。（総合工事） ・通常でも春先受注は鈍化だが、コロナが影響し更に悪くしている。公共事業の先行き見えず不透明のみ。（設備その他） ・新型コロナウイルスの影響なのか一部の工事受注件数（一戸建て）の減少が続いている。しかし、昨年と比べ大幅な落ち込みではなく他の工事の増加もあり年度内の業績には全く影響は出ていない。人材については採用により充足してきており、欲しい人材（有能な管理職）の採用も徐々に進んできている。（設備その他） ・完成工事高は、冬場の工事減少により前年比で減少した。人員不足は解消されていない。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・東京、神奈川等の緊急事態宣言が解除となったが、発注量は微増である。ただ昨年コロナの影響で中止やオンラインでの販売だった道外のイベントができるのが大きい。販売に関してお客様と密にならないこと等の制約もあるが、少しでも回復できるよう努力していきたい。（食料品） ・昨年は 4・5 月以降の売上が激減したが、今年の落ち込みは昨年ほどではない。一方経費は継続的に圧縮されている為、採算に関しては好転が見込まれる。昨年末に実施した長期借入金のリファイナンスも効果が出ているように感じる。（家具・木材） ・4 月の販売価格改定は納品先の理解を取り付けているので、仕入れ材の価格上昇への対応済み。役所発注の農業土木関連品は承認願いを既に発行済み、4 月に入れば順次受注。コロナの影響で今後先行きが不透明。（金属窯業等）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響による衛生用品などの消耗品の特需はまだ続いており、この先も続くと思われる。それ以外の面では若干の消費の増減があるだろうが、ほぼ例年並みで推移しそう。（繊維・衣服等） ・3 月後半に入り原油価格が下落しており、4 月以降石油製品の価格は小幅ではあるが下がり傾向になるとと思われる。（その他） ・グループ会社合併に向けた動き等、内部的な業務が多い。業況は前年同月と同様と思われる。（飲食料品） ・送料、配達費等（今までかかっていない）が請求されるようになった。（機械鋼材）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスによる飲食店への売上の落ち込みが続いているが、3 月は若干売上が増加した店もみられる。（食料品） ・店舗顧客は少しずつ来店の兆しはあるが、新型コロナウイルスの影響はまだ続きそう。新社会人、新入学（大学）スーツの需要がまったくなく、3 月を逃すとスーツ売上は見込めない。前年の 70%の売上は確保したいが…。（衣服見回品） ・原油高騰。仕入値上昇に販売価格が追いつかず採算悪化。加えて一部の廉売業者による安売りは旭川の業界全体に悪影響となっている。春商戦に活路を見出す。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊ホテルのお客様が 1・2 月よりも少々戻り前年比 40%。まだ前年比の半分も戻っていない。工場は週 2 日半しか稼働しておらず資金繰りに苦しんでいる。ホームクリーニングは前年比 80%。（理美容・クリーニング） ・昨年より売上の増加しているが、ただ昨年が悪すぎただけでまだまだ売上減少の状況に変わりはない。（飲食） ・コロナの影響も最悪だった昨年よりは良好であろうと希望的観測。変異型の蔓延など状況が変わらない。悪化した場合は最低を更新するかもしれない。（ホテル・旅館） ・何度も言うがあくまで激悪だった昨年よりは上向きというだけであって、一昨年比では悪化はまったく収まっていない。人の動き等今後に期待がもてることもあるが当面水面下沈降が続く。（運送） ・コロナ禍の中、今年度については災害対策関連事業の恩恵もあり、前年度並みの売上を確保出来たが、次年度については、公共事業の縮減及び民間投資の減少から非常に厳しい 1 年になるとと思われる。（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI19.2 ポイント悪化、採算 DI12.5 ポイント悪化、仕入単価 DI5.8 ポイント悪化、販売単価 DI4.1 ポイント改善、資金 DI7.5 ポイント悪化、従業員 DI12.4 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.7 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事 8 ポイント、建築業 7 ポイント改善、設備・その他 25 ポイント悪化となった。4 月頃から着工物件があり忙しくなりそう。コロナの影響により中止等にならなければいいのだがとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI35.0 ポイント改善、採算 DI10.7 ポイント改善、仕入単価 DI12.1 ポイント悪化、販売単価 DI16.6 ポイント改善、資金 D4.3 ポイント悪化、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 17.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、金属窯業他 10 ポイント悪化、食料品 29 ポイント、印刷・出版 23 ポイント、家具・木材 43 ポイント改善となった。鉄鋼資材の値上げが総伸びの見込み。暫くは販売価格の維持との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI14.3 ポイント改善、採算 DI14.3 ポイント改善、仕入単価 DI14.3 ポイント悪化、販売単価 DI14.4 ポイント改善、資金 DI 横ばい、従業員 DI7.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 21.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 4 ポイント悪化、繊維・衣服等横ばい、機械鋼材 33 ポイント、その他 55 ポイント改善となった。すべてコロナの影響が大きいとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI8.1 ポイント改善、採算 DI9.2 ポイント悪化、仕入単価 DI7.1 ポイント悪化、販売単価 DI1.1 ポイント悪化、資金 DI4.0 ポイント改善、従業員 DI5.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、自動車 5 ポイント悪化、衣料品、その他横ばい、食料品 20 ポイント改善となった。新型コロナウイルスの影響との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI61.9 ポイント改善、採算 DI45.2 ポイント改善、仕入単価 DI2.4 ポイント悪化、販売単価 DI15.0 ポイント改善、資金 DI20.1 ポイント改善、従業員 DI9.1 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 49.5 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、理美容・クリーニング、その他横ばい、ホテル・旅館 83 ポイント、飲食 13 ポイント、整備業 40 ポイント、運送 133 ポイント改善となった。昨年度は一時的にコロナ対策のパーティー等がこの時期に発注があり売上が増加したが、今年はその分が減少しているとの声も寄せられている。</p>